



## Report 3 生まれ故郷に笑いを届ける 林家ひろ木落語鑑賞会

東城町出身の落語家、林家ひろ木さんの落語鑑賞会が11月15日、東城文化ホールで開催されました。

この日はまず、東城町内の小中学生が招待され、落語の基礎知識講座や子どもにも分かりやすい噺(はなし)に笑いが巻き起こりました。

また、子どもたちが落語を実演する機会もあり、小学生3人と中学生3人が立候補。壇上では緊張しながらも、上手な演技を披露していました。

夕方からの一般の部では、多くの家族連れが訪れ、約240人もの人で会場が埋まりました。ひろ木さんは落語だけでなく、津軽三味線を弾きながらの歌も披露。会場は終始笑いと笑顔に包まれていました。

▶林家ひろ木さん



## Report 4 クリスマス・お正月を華やかに プリザーブドフラワー講座



▲松尾さん(右)から指導を受ける参加者

比和自治振興区が主催するプリザーブドフラワー講座が12月3日、比和自治振興センターで開催され、町内から9人が参加しました。

プリザーブドフラワーとは、花や葉を特殊な液体に浸し、水分を取り除くことで、生花のような状態を長期間持続できるように加工された装飾用の花のことで、この日はプリザーブドフラワーを使って、華やかな正月飾りやクリスマスリースづくりに挑戦しました。

参加者は講師の松尾昌恵さんに指導してもらいながら、ホットボンドを使って土台となるリースや門松などに飾り付けを行い、2時間ほどで色鮮やかなオリジナル作品を完成させました。

正月に飾る門松を作った参加者は「摘んできたばかりの花を飾っているよう。玄関に飾っていい年を迎えたい。また機会があれば作製してみたい」と話していました。

## Report 5 秋空の下楽しいリズムが響き渡る 第5回ふれあいの丘秋のコンサート

第5回ふれあいの丘秋のコンサートが11月24日、口和郷土資料館で開催され、約100人が来場しました。

このコンサートは、鮎の里公園で8月に開催された「せせらぎコンサート」の継続イベントとして開催され、音で口和地域を盛り上げようと企画されたものです。

この日は8人のサクソファンサンブルグループ「ファニーフレンズ」が出演。

第1部はクラシックやジャズなど10曲が披露され、来場者は心地よいリズムに酔いしれました。第2部では、365歩のマーチなど昭和の懐かしの歌謡曲全17曲を来場者みんなで合唱しました。

演奏した口和町出身の清水敬章さんは「久しぶりに

口和町に帰って来た。地元でコンサートができて、大変感動した」と感慨に浸っていました。



▲ファニーフレンズ

市内のイベントやまちの話題をお届けします。  
身近でホットな情報をお寄せください。  
情報政策課広報広聴係  
☎ 0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

## Report 1 歴史絵巻を再現し地域をつなぐ 第6回のろし再現プロジェクト

戦国時代の通信手段を再現する「のろし上げ」イベントが11月23日、快晴の下行われました。

「のろしを上げる」という共通の取り組みを通じて、人と人、地域と地域の絆づくりを目的に毎年開催されています。

午前9時、庄原市役所前広場でセレモニーが行われ、藤谷善久実行委員長が「のろしを上げよ」と読み上げた伝令書を飛脚役の庄原陸友会のメンバーが受け取り、市内7カ所ののろしポイントへ走り届けました。

のろしは11時30分、口和の黒岩城址公園駐車場をスタート。



▲藤谷実行委員長(右から3人目)が伝令を読み上げる



▲勢い良く上がるのろし(庄原自治振興区)

## Report 2 たかの体験から高野ファンを増やしたい そば打ち体験で交流深める

上高自治振興区と下高自治振興区が共催する『たかの体験』が11月30日、高野福祉保健センターで行われ、広島市や三次市などから11人が参加しました。本年度6回目となる今回は、たかの体験農場で収穫したそば粉を使ったそば打ちを体験。

地域の名人に教わりながらのそば打ち体験の後は、出来たてのそばと高野産コシヒカリのおにぎりなどを味わいながら交流を深めました。

後日、広島市から親子で参加した山下祐也くん(小学4年)から「また遊びに行きます」と締めくくったお礼の手紙があり、上高自治振興区、下高自治振興区ともに「こうした交流が広がるよう来年もこの『たかの体験』を実施したい」と話していました。



▲そば打ちの実演に目を凝らす参加者



Report 6

## 秋の収穫をみんなで喜ぶ 亀谷自治会収穫祭



▲採れたて野菜を元気よく販売

総領町亀谷自治会が主催する収穫祭が11月23日、地域にあるログハウスを会場に開催され、約50人が訪れました。

当日は、自治会のメンバーを中心におよそ20人が参加。地域の子もた

ちが育て、収穫したサツマイモをはじめ、地域で育てた白菜、ゆず、しょうが、キウイなどの採れたて農産物がずらりと並びました。

地域の子もたちが売り場に立ち、自分たちの育てた野菜を元気よくアピール。会場に訪れた人は、威勢のいい声に乗せられるように次々と買い求めていました。また、子どもたちが育てたサツマイモをふんだんに使った豚汁や焼き芋も振る舞われました。

野菜を販売した塚本泰成くん（総領中3年）は「自分たちで育てた野菜を買ってもらえてうれしかった。また来年も売ってみたい」と話していました。

この日の売り上げの一部は、東日本大震災の復興のために寄付されます。

Report 7

## 地域ので交流と元気づくり 第37回歳末たすけあい芸能大会

赤い羽根共同募金推進と地域の交流・元気づくりを目的にした「歳末たすけあい芸能大会」が12月1日、ウィル西城で開催され、個人・団体を含め総勢249人が出演しました。

この大会は、庄原市共同募金会と庄原市社会福祉協議会が毎年開催し、住民やボランティアスタッフに支えられ今年で37回を数えます。今年も地域の方47人がボランティアスタッフとして参加しました。

保育園児のお遊戯から始まり、西城の一年を振り返った演劇や、民謡やカラオケ同好会が日頃の特訓の成果を披露するなど、バラエティに富んだ25演目が繰り広げられ、終始にぎやかな催しとなりました。

この日集まった360,727円の募金は、県共同募金

会へおさめられ、来年度、市内の福祉事業へ有効活用されます。



▲西城ハイビスカスによるフラダンス

Report 8

## たすきをつなぎ師走の庄原路を力走 第62回庄原市スター式駅伝大会

師走恒例の第62回庄原市スター式駅伝大会が12



▲力走するランナー

月1日、上野総合公園陸上競技場を発着点で開催され、市内外から86チーム516人が出場しました。

男子16キロ、女子15.6キロの距離をそれぞれ6区間、中学、高校、一般、職域など計7部門で競いました。

さわやかな快晴となったこの日、4部門で5つの区間新記録が出る白熱のレースが展開。たすきをかけたランナーは、沿道からの多くの声援に背中を押されながら、力強いピッチを刻んでいました。

中学の部3区で区間賞、全体でも2番目のタイムを記録した口和中学校3年の中村勇輔くんは「1年生のときも同じ区間を走り区間3位だったので、3年生の今年は区間賞をめざし自主練習した成果だと思えます」と話していました。